

# おおたか写真館

キッズ★フェスタ 2022



HAPPY

あこがれのパトカーにのってみんなとっても楽しそう！



様々な練習成果発表プログラムでホールも大盛況！

ワークショップを3つ開催！これはくるくる風車作り。



キッズ★フェスタ 2022 を7月3日に開催しました。数あるおおたかの森センターのイベントの中でも最大規模。年に一度開催している三社共催イベントです。当日は大勢の方にお越し頂き大盛況でした。ワークショップ、コーヒー、パン、ファームタカギさんの野菜販売も大人気でした。ご参加頂きました皆さまありがとうございました。また来年も、キッズ★フェスタ 2023 でお会いしましょう！

# Oh! taka Journal

流山市おおたかの森センターと 2022年 秋号

地域をつなぎ

## Vol.1

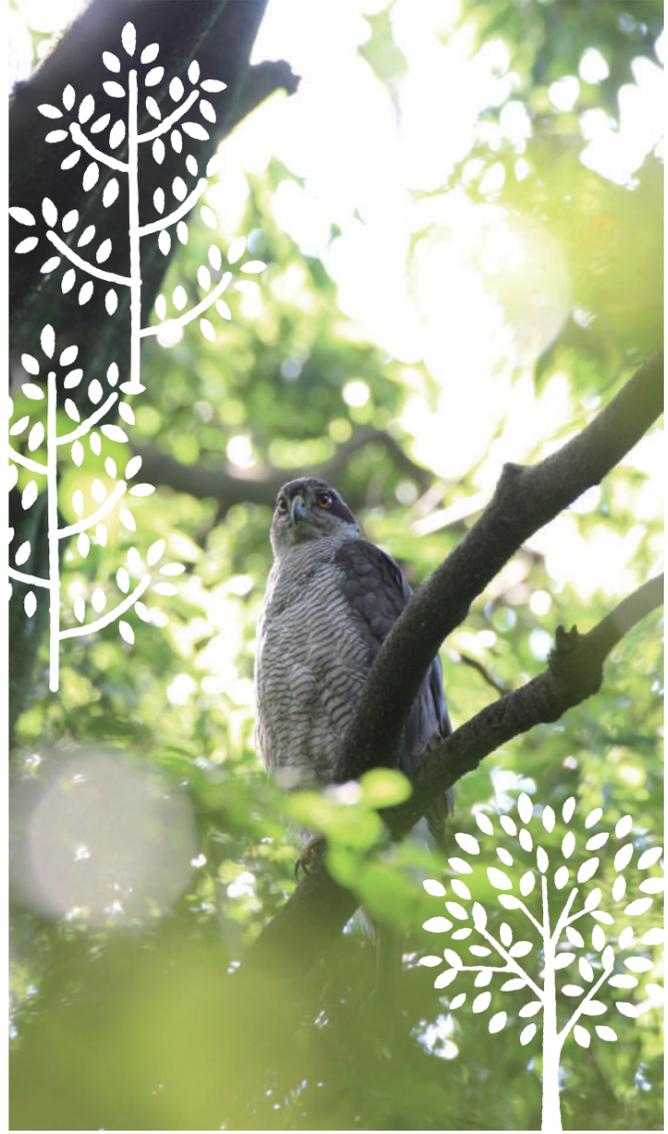
寄り添うジャーナル誌。

[編集・発行] 流山市おおたかの森センター 〒270-0128 千葉県流山市おおたかの森西 2-13-1 TEL.04-7159-7031 FAX.04-7159-7062 Nagareyama City Otakanomori Center 2-13-1 Otakanomori Nishi,Nagareyama City,Chiba 270-0128, Japan

[発行日] 2022年 10月 17日

[印刷] 流山市おおたかの森センター

Instagram @otakanomori\_center Twitter @OtakanomoriCity



## 今月の選書 by こども図書館

### 「ファンファンおばけやしき」



ハロウィンにちなんで、世界中のお化けがでてくる絵本をチョイスしました。すこし怖いけど、ゲームしながらの読書です。楽しいですよ！

あるとき、もんちゃんは目玉お化けの落とし物を拾いました。落とし物を渡そうと追いかけますが、迷路に入ってしまう。迷路の門をはいるとなんと今度はお化け屋敷の中へ。もんちゃんは目玉おばけを見失ってしまいます。たまたま落とし物の中身をあげてしまったもんちゃん は、、、

## 編集後記

記念すべき初刊号、お楽しみ頂けたでしょうか？センターとセンター外を繋ぐ懸け橋として発行されたこのジャーナル。センター外の方とお話する機会が中々無いので、自分の足で取材をしたことで、日々移り変わる流山で頑張る方との温かい出会いや新しい発見がありました。目に見えて発展していく街の姿を見られることは、今の日本ではとても貴重な気がしています。そんな新旧が共存する街にある当館は、様々な年代の方にご利用頂いています。「こんな活発な公民館って中々ないよね！」「どの年代向けのイベントも魅力的だね！」と喜んでいただけるように、おおたかの森と共に成長していきます。

編集・デザイン 齊藤 慶美

## おおたかの森センターからのお知らせ

冬が近づく11月27日。おおたかの森センターでは、毎年恒例の「ちょっとはやめのクリスマス会」が開催されます。おおたかの森チアダンスチームやどんぐり学童クラブによる成果発表、クリスマスカード作り、パン・コーヒー販売、映画上映も行います。お友達やご家族とお誘い合わせの上、是非お越しください。また、子育て中のママがゆったりとヨガやピラティスを楽しめる「リフレッシュサロン」。未就学児のお子さまと一緒に親子でたのしく運動する「わくわく親子体操」。乳幼児の親子でふれあい遊びをする「おおたかの森ひろば」など、親子で参加できるイベントが冬も盛りだくさんです。イベントのご予約はおおたかの森センター(04-7159-7031)にお電話、または受付カウンターでも行ってまいります。詳細は広報誌「広報ながれやま」をご確認下さい。





館長 森 忠行 さん

今回は、流山 おおぐろ地区にある「森の美術館」にお邪魔させていただきました。館長は森忠行さん。今年開館 6 年目を迎える美術館に込める思いをお伺いしました。

**インタビューー** どうして流山の地に美術館を建てようと思われたのですか？

**森さん** 美術館の建設地探しに奔走していた折、この流山の地に辿り着きました。駅にほど近いこの場所に広がっていたのは思いもよらない日本の古き良き原風景。美しい豊かな農村と新緑の竹林でした。思い描いていた、「知る人ぞ知る、落ち着いた静かな美術館」にぴったりの場所だったんです。

**インタビューー** 本当にここは不思議と心が落ち着いて、作品に静かに向き合えます。そんな素敵なこの地で、森の美術館はどんな役割を担っていると感じますか？

**森さん** 近年は流山にとどまらず、全国各地から来館される方も増えました。多くの方が素晴らしい作品の数々と向き合い、「本物」を体感していただける場になっているのではないかと感じます。また、美術館で展示する機会の少ない多くの作家の皆さんの発表の場であり続けたいと願っています。

**インタビューー** プロの画家の方だけではなく、中学校美術部の作品展を開催され、森の美術館ならではの取り組みもされていました。参加者のみなさんからはどのような反応がありましたか？

**森さん** 美術館で展示する機会はそう多くはありませんので、とても喜んで貰えています。近年では小学校の美術鑑賞カリキュラムの一環としてここで作品鑑賞をしてもらうこともあります。子どもたちが幼いながらも作品を読み解き、語り合う姿をみるととても嬉しくなりますね。その子どもたちが大人になっても、ふと思い出すようなそんな美術館でありたいです。

**インタビューー** そんな様々な取り組みをされている森さんの、今後の挑戦と展望をお聞かせください。また、最後にこのジャーナルを読んでいる皆さんに一言お願いします。

**森さん** 今は亡き画家の方々の素晴らしい作品も後世に伝え、今の若い方にも実物を見ていただく機会を作るのも私の今後の使命だと思います。あとは私が長生きすることでしょうか(笑) 皆さま、是非自然と絵画の調和を味わいにお越しくさいます。



無機質な外観と緑のコントラストが美しい。



「井崎昭治展」大胆な中にもリズムミカルで心地よいタッチ。(※会期終了)



周りには美しい芝生と竹林が静かに広がる。



「島倉重友展～風の刻によせて～」を12/22迄開催中。茨城県県立近代美術館所蔵の4点を含む日本画26点を展示。詳しくは森の美術館HPまで。

## Oh!散歩 ながれやま 第一回

### おおたかの森センター・こども図書館・どんぐり学童クラブ



おおたかの森センターは流山市の公民館。おおたかの森小中学校併設施設です。

こちらも小中学校併設のどんぐり学童クラブ。300人以上の児童が通う大規模施設です。



センター奥のエレベーターから2Fへ。日光差し込む、こども図書館があります。



## 親子星空探検隊

現在おおたかの森センターで開催中の「親子星空探検隊」。その前身である「本気星空クラブ」は、1本の天体望遠鏡から始まりました。センターの職員が誰でも自由に見られるようにと設置した望遠鏡を沢山の来館者が覗くようになったのがきっかけで、講師の方を招いた本格的な星空観望イベントがスタート。最初は大人向けの講座でしたが、近隣の子どもの人口が増えるにつれ、親子で参加される方が非常に多くなりました。より子どもたちにも分かりやすく、親しみやすいイベントにしたい。そんな思いで始まったのが「親子星空探検隊」です。現在の講師は、唐崎健詞さん。普段は移動式プラネタリウムを用いて県内外の学校へ出張講義を行っている、星空解説のプロフェッショナルです。楽しい講義のあと、学校の広いグラウンドで星空観察。5歳児から大人まで、みんな真剣に望遠鏡を覗きます。1ヶ月に1回開催されている本イベント。是非一緒に宇宙探検に出掛けてみませんか？  
【次回開催】11月11日・12月2日(2回セット)※募集終了



次回開催日などのイベント詳細はセンターHP・広報ながれやまをご覧ください。

## 館長一筆箋

すっかり秋めいてきました。初めまして、センター長の野口と申します。創刊号ですので簡単な自己紹介を。当センターに勤めて3年目です。それまでは小学校に勤務していました。流山市民ですが、流山の小学校ではなく、野田市と我孫子市の学校勤務でした。当センターがおおたかの森小中学校と併設の施設であり、何か不思議な縁を感じます。朝夕と子供たちの登下校の声を聞きますと、まだ学校の職員と錯覚してしまいそうです。学校と繋がっているという特徴を最大限に活かしたセンター運営がされてきましたが、少しずつ活動範囲を広げていきたいと考えています。その一つが「おおたかの森ジャーナル」です。年3～4号の発行を目指しています。センターの活動にとどまらず地域の情報も発信していきます。どうぞよろしくお願いたします。

## 今月の書

空を仰いで爽やかな秋の空気を思いっきり吸い込むのもいい気分転換です。(館長・野口)

